令和４年５月３１日

学校だより

６月号

横浜市立美しが丘東小学校
学校長　　藤本　光子

ホームページ　http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/

熱を込めて

副校長　　二瓶　亜希子

徐々に、あるいは、にわかにあつくなってきました。気候だけでなく、子どもたちの思いも。

今年度に入り、徐々にコロナ以前に行っていた教育活動を、美東小では少しずつ取り戻しています。朝会や集会、１年生を迎える会など、放送ではなく、校庭に全校で集うことが常となってきました。また、５・６年生の家庭科の学習での調理実習を２年ぶりに実施。徹底した感染症対策を行ったうえで、机上ではない活動を実践することができました。子どもたちにとって、実感を伴う熱の入った学習となったことで、子どもたちはたいへん満足気な表情でした。家庭科ボランティアさんにお力添えをいただいたことで、安心して取り組めたことも大きかったのではないかと思います。

運動会については、練習の初期段階から様々な場面でたいへんな熱気を感じました。体育の時間だけでなく、教室の中での隙間時間(帰りの会がはじまるまでに早く支度を終えたときなど)に寸暇を惜しんで、目を輝かせ、演技の練習を重ねる姿。３年ぶりに復活した応援団練習では、初回の練習から気合のこもったいい声。リレー選手の朝練習の実施も３年ぶり。校庭でのバトンパス等の練習はもちろん、体育館での基礎トレーニングの練習にも一切手を抜かない真剣なまなざし。５・６年生の委員会活動を母体とした運動会の係活動では、本番さながらの熱気あふれるアナウンス。感覚的ではありますが、どの学年の子、どの役割の子も明らかに熱量が大きいのです。それは今年度、全校児童が一堂に会する運動会にもどったことによるところが大きいのではないでしょうか。ソーラン節の法被と力強い演技は、これまでもきっと下の学年の子どもたちのあこがれだったのでしょう。今年はいよいよ、あの法被に自分が袖を通して演技するのだという熱い思いが、きっとまた下級生たちにも伝わるはずです。きょうだいの競技やなかよし活動の上級生や下級生の演技を見合えることは、熱量を高める原動力となってきたに違いありません。そして家族が晴れ姿を見てくれる運動会本番。より熱のこもったパフォーマンスを、どの子もほめてもらったのではないでしょうか。

これまでできなかったこと、例えば思い切り歌ったり、例えばとびきりの笑顔をマスクなしで交わし合えたりする、そんなかつての日常を少しずつでも取り戻せることを願わずにはいられません。これから夏を迎え、３年ぶりの水泳学習も行われる予定です。学習活動の制限が緩和されつつある今、本校の教職員の熱意も高まっています。たくさんの人数での PTA のフラワーボランティアの活動も再開し、植えていただいたその美しい花を、うれしそうにのぞき込んでいる子どもたちの姿を見かけます。昨年度末は見合わせていた読み聞かせボランティアも再開。さまざまな学習ボランティアの活動も、学校・地域コーディネーターの方のご尽力により、大勢のボランティアの方にご協力いただいています。学校と家庭と地域、これからもそれぞれの熱い思いで子どもたちの成長を支えていかれたらと思います。